

団長の独り言

6月12日(日)「ヘトヘトになろうとも」

6月に入り、いよいよ本格的な芝居の稽古を行う。

2月に上演した「久美・美容室物語」を無事終えてから約4か月、稽古自体はずっとなかった。

「お芝居の稽古」ってものからこーんなにも長い期間遠ざかったのは劇団史上初めての事なので、さぞや身体や感性がなままっているだろうなあ〜と思いつつ、「土日の夜は稽古!」という意識の下、18時開始の稽古に照準を合わせ、稽古の日を迎えていると、意外とすんなり感覚を取り戻せていた。

たださすがに6月のこの時期から、来年の2月に赤坂で行う「人生芸夢〜夢のとおり道〜」の稽古をガッツリやるってのもどうなんだろう? 正直思っていたので、6、7月の稽古は、「(人生芸夢)ってこんな感じなんですよ〜ん」とふんわりとした雰囲気、読み合わせを行いつつ、ダンス、歌、立ち回りというエンターテインメントの稽古を重点的に行うつもりでいたのだが、キャストティングされた「熱意」と「やる気」の塊のようなメンバー達と対峙すると、私もつい気合が入りまして、「こんな感じですよ〜ん」な気持ちには消え失せ、ハイテ

ンションで、かなり激しく何度も何度もダメを出しまくりに、ついガンガンやっってしまう。

当然ながらキャストの皆さんも、真剣なダメ出しに食らいつくが、ダメが一発で通る人、まったくダメの通らない人等のばらつき感が激しく、なかなか先へは進まない。

それでも何度となく繰り返していくと、まだまだ読み合わせの段階なのに、登場人物に命が宿り始める。

すると、私お得意? の脚本の矛盾点、次から次へと発見され始めた。

「だから季節はいつ?」という時系列的におかしな場面が出てくるのはいつも事だけど、4流コメディアンがいきなり立ち回りの主役になっていたり、いはずの登場人物がしゃべってみたり: 未完成の脚本、突っ込みどころ満載!

あの: 私が脚本を描く時って、季節がいつとか、誰がいたとかいらないとか: そんな細かい事を気にしては筆が進まない体質なので、**(細かい事か!?)** まずは勢いと想いつきで、矛盾点も何もかもお構いなしに描き進め、一通り描き終えてから、様々か矛盾点を修正していくスタイルなのだ。

そうして、ようやく完成した脚本を、今度は、数年前から毎回お世話になっている最大の協力者Tさんに仮台本を讀んでいただき、鋭い視点からのご指

摘やご意見を参考にして脚本を練り直し、「読み合わせ」の時に役者達から指摘を受けた箇所も修正をし、段々と上演出来るレベルにまでなっていく。それにしてもだよ? 20年前はこの今の脚本で通用したって事なんだよね。当時も脚本の修正作業は行っていたはずなんだけどなあ:。

きつとあれだね! この作品の持つ迫力と当時の役者達の熱量が、脚本の矛盾点をカバーしてくれたのだと思う。その結果、作品は大変高い評価をいただく事が出来た。

こうして初演「人生芸夢」は大成功を収め、さらにその6年後、続編的な作品「人生芸夢〜私の青空〜」を上演すると、これまた大ヒット致しまして、いつかまた「人生芸夢を上演するぞ!」って想い続け、さらに十何年間の月日が流れ、この度、来年の2月に「人生芸夢〜夢のとおり道〜」を上演できる運びとなった。

その「人生芸夢〜夢のとおり道〜」だけど、本格的な立ち稽古に入るのは、10月に板橋区立文化会館にて行う「久美・美容室物語板橋公演」が終わってからのしようと思っているのだが、「人生芸夢」という作品は、ダンスや歌や立ち回り等の見せ場が結構あり、どれもこれも「決まれば」カッコいいわけで、

「カルチャースクールの発表会」にはしたくない。

そこで、今のうちから時間をかけてエンターテインメント部門の稽古をちゃんと行い、どのパートも「出来る人」がキチンとお見せ出来るようにすべく、かなり気合を入れての稽古を行おうと思っている。

ダンスは激しい動きに合わせてかっこ良く踊り、歌のシーンでは、ソロパート歌う二人にお客様がうっとりするような「オーラ」が出せるように研究し、立ち回りに関しては、実際に刀を振りまわすので、ボヤ〜とした人がいると、メンバーに怪我をさせる可能性大。そこで緊張感のある稽古にすべく徹底的に厳しく指導をしている。

そんなハードな稽古を終え、家に帰るともうだめ。

疲労感たるや! かなりのもの。一旦座ると睡魔が襲い掛かり、風呂に入る事すら出来ず、もおーね、クタクタのヘトヘト状態。

芝居の稽古に歌に踊りに立ち回り:。そりゃーきついわあ〜。

でもね「やり遂げる」って決め、このようなスケジュールにしたのだし、皆さんもそれを承知で参加しているのだし、期待して下さっている多くの方々に最高のパフォーマンスをお見せ出来るように、やり抜きましょうね!